

## 事業の背景・目的

堀川の水生生物として、堀川ダム湖の上流域にミズスマシ(環境省絶滅危惧Ⅱ類)が生息しており、ダム堤体直下流域にはモノアラガイ(環境省準絶滅危惧)が多産する。また、1個体のみではあるが、堀川ダム湖内からはゲンゴロウ(環境省絶滅危惧Ⅱ類)が記録されている。堀川ダム湖内にウチダザリガニが生息する以前はチャイロシマチビゲンゴロウが多産していたが、ウチダザリガニの個体数が増加した現在ではダム湖内から本種は姿を消し、ダム堤体直下流域にわずかに残存するのみである。ウチダザリガニの個体数密度を低減しないと、ダム湖内だけでなく、現在はまだ高密度ではない上下流域に分布が拡大することにより、これら希少種(ミズスマシやゲンゴロウ類、特に幼虫)は、生息環境の改変や捕食を通して絶滅してしまう可能性が高いと考えられ、本事業を実施しそれらの保全をしていきたい。

## 事業の内容

### 防除事業

- ・ カニかごの中に誘引物を入れダム上流域に30箇所設置し数時間から数日後に回収を行った。今年度は委託業務含め計23日活動実施し、合計18,362匹の防除結果となった。(防除実施日及び実施日別防除数については別紙活動実績表参照)
- ・ 捕獲場所、雌雄の数、重量、抱卵の有無等を記録した。
- ・ 土嚢袋に詰め、焼却施設にて適正に処分した。
- ・ 防除業務の委託を行い、効率化を図った。
- ・ ダム下流域3地点にカニかごを設置し生息域の調査を行った。
- ・ 北海道洞爺湖町へ先進地視察を行った。

## 得られた成果

- ・ 昨年度防除実績21,121匹に対して18,362匹の防除結果となった。今年度も10,000匹を超える個体を防除しており、個体数低減までは至っていない。
- ・ 福島大学教授よりダム湖内でウチダザリガニの好む環境に合った新たな場所を発見し、効率的に防除作業を行った。
- ・ 分布調査を7月～10月にかけて月1回計4回実施した。ダム堤体直下流域から約1km、約2km、約4km下流にそれぞれカニかごを1つ設置したが、8月に実施した調査では約1km地点で1個体が確認された。
- ・ 先進地視察を行った洞爺湖町で使用していた連続捕獲装置を2基購入し、実際に堀川ダム内で使用した。連続捕獲装置と従来型のカニかごを同じ場所に設置し1週間放置し回収をしたが、従来型のカニかごと比較し連続捕獲装置の方が防除個体数は多かった。このことから堀川ダムにおいても連続捕獲装置を使用しての防除は有効であると考えられる。一方で、コストが高いこと、収納性が悪い等のデメリットもあった。今回購入した2基についてはいつ仕掛けていつ回収するか等専門家から指導・助言を受けながら効率的に防除できるような使用方法を検討していきたい。